

氏名(本籍)	あさ み よし つゆ 浅見良露(滋賀県)
学位の種類	博士(理学)
学位記番号	博乙第1,158号
学位授与年月日	平成8年1月31日
学位授与の要件	学位規則第4条第2項該当
審査研究科	地球科学研究科
学位論文題目	The Geographical Analysis of the Inter-Area Linkage of Economic Fluctuations in Fukuoka Region, Japan (福岡県域における経済変動の地域間連鎖関係の地理学的分析)
主査	筑波大学教授 理学博士 奥野隆史
副査	筑波大学教授 理学博士 高橋伸夫
副査	筑波大学教授 理学博士 佐々木博
副査	筑波大学教授 理学博士 斎藤功
副査	筑波大学助教授 理学博士 手塚章

## 論文の要旨

本論文の目的は、都市を核とする小地域を分析単位として、それら小地域に生じる経済変動の地域間伝達パターンの特徴を見出し、伝達経路にかかわる地域間関係を地域的経済関係あるいは産業関係の側面から解明することである。分析指標として小地域の経済変動を表現する新規求人数、また対象地域として地域性が多様な福岡県域をそれぞれ取りあげ、その内部に10の小地域を設定した。

初めに、1975～1985年の新規求人数を季節調整系列化し、トレンド・循環変動・不規則変動を識別した。それによると、製造業雇用の需要の高い福岡県南部が上向トレンドを示し、第3次産業あるいは素材産業を主体とする大牟田や福岡は不規則変動を呈した。次いで、このような経済変動は発生源から周辺地域へ伝達されると考えられ、その状況を検索するために、Box-Jenkins法のTF(伝達関数)モデルの利用によって、隣接する地域ペアの両方向について新規求人数の時系列に関するTFモデルの識別とパラメータの推定を行った。その結果、22の有意なTFモデルが得られた。そのモデルのパラメータ値の検討から筑後→福岡、宗像→福岡、宗像→筑豊などで伝達関係が強く、京築、北九州、大牟田では独自の変動を示すことが明らかとなった。また変動の発生源となる地域は、鳥栖、宗像、北九州、荒尾などトレンドを示す地域であり、変動の受け手となるものは筑豊、福岡であることもまた見出された。

さらに、このような伝達関係の地域的差異を説明するために、地域間の経済的結合関係を考察した。その方法として、先に求められたTFパラメータを被説明変数、品目別地域間物資流動(雇用者数換算済み)を説明変数とする回帰分析を行った。この分析に際しては供給主導と需要主導の両原理を前提とした。その結果、福岡を中心とする農水産品、雑工業品、軽工業品の周辺地域に対する供給と、福岡や北九州の鉱産品と一次産品に対する需要とが説明因となることが判明した。このことは、素材工業地域での素材供給が組立工業地域の経済変動を生ぜしめ、また完成品組立工業地域での原材料への需要変化が原材料生産地域の経済を動かすという従来の見方とは異なり、中間製品や軽工業品や農水産品の流動が地域間の経済変動の伝達に寄与しているという見解を成立させた。

## 審 査 の 要 旨

本論文は、経済変動という一つの地域事象が周辺に対して伝播する過程を解明するものである。この過程は地域のもつ特徴すなわち地域性を形成する過程であるといわれ、以前から地理学の基本課題として研究されてきた。最近では空間的スペクトル解析や空間的拡散分析の発展に伴って伝播パターンの一層の明確化とそれの生成要因の追及が展開されている。経済変動という事象に限ってはある地域で生じた経済変動に対する周辺地域の反応や伝播経路が問題とされてきたが、時間的要素の組入れの不十分さ及び伝播パターンの形成因に対する等閑視のため、具体的状況は不明確であった。著者は、経済変動の地域間伝達を明示するためにBox-Jenkins法TFモデルを援用し、そのパラメータ推定から伝達パターンと経路を見出した。さらに伝達度の強弱をもたらす要因について地域間の産業関連と地域産業構成に基づいて明確化した。このようなことは、経済地理学とりわけ経済地域構造論の研究の発展に寄与し、高い評価を与えることができる。

よって、著者は博士（理学）の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。